

〒975-0031
 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
 TEL:(0244)26-1315
 FAX(0244)26-1318
 E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



令和8年2月3日(火)実施

上真野小学校 後期校内ビブリオバトル



BOOKS 上真野委員会 (図書委員会) が大人気



南相馬市立上真野小学校で開催された、校内ビブリオバトルにお邪魔してきました。継続的に今年度3回目の訪問になりましたが、その都度、様々な部分で、子どもたちのビブリオバトルや読書活動に対する成長を見せてもらいました。

今回のバトルは、児童委員会の後期のメンバーでした。学校司書の方に話を聞くと、ある学年では図書委員会希望の子どもたちがたくさんいて、メンバーを決めるのに結構時間がかかったということです。また、選ばれたメンバーから、自分たちもビブリオバトルをやってみたいという声は自然と上がってきたそうです。ビブリオバトルをやってみたいという想いで委員会活動を選ぶ子どもが出てきています。

ビブリオバトルの様子

図書室で、バトル前の子ども達に聞いたのですが、口々に発せられる言葉は「緊張する」でした。人前で発表することはやはり緊張するものですが、児童の皆さんの表情からは「早く発表したい」という前向きな気持ちが見て取れました。

実際プレゼンテーションが始まってしまうと、自分の推し本についてそれぞれが思いを込めて紹介していました。気に入ったフレーズを含めて紹介したり、発展的な別な本と共に紹介したり、聞き手が好きそうな本を紹介したりと個性が光っていました。

また、発表を聞いている子どもたちも、真剣に話を聞いていました。校長先生の見解では、最後に投票があることや、発表の内容が興味深いということで、普段よりも聞く集中力は高めだそうです。



身近な読書活動の積み重ね

今回のビブリオバトルの中で印象的だったシーンは、バトルが終わり、解散した後にあります。

簡易集計を図書委員の子がやっていたのですが、発表した中に1票しか得票できなかった子が居ました。その子はたった1枚の紙を握りしめ、「くやしい・・・」とつぶやいていました。周りからは「悔しいと感じるのは、頑張った証拠だよ」「発表するだけでもすごいことだよ」という励ましの言葉がありました。その子も「次にリベンジだ!」と、気を取り直していました。話はここで終わりではありません。昼休みになると、その子が紹介した本を、フロアで聞き役だった低学年の子が早速借りていたのです。1票しか入らなかったかもしれませんが、読書への意欲につながっていたのです。今回のチャンプ本を紹介した子も、初参戦の時は2票しか入らず、悔しい想いをしてから3度目の挑戦だったそうです。このように、校内ビブリオバトルや学級内でのビブリオバトルは、チャンスが何度もあり、子どもたちの生活に密着した読書活動になります。ぜひ、多くの学校でも実践してみてください。

【今回使用した写真は全て相双教育事務所のデジタルカメラで撮影したものです】

	バトルー	書名	出版社	結果
下学年 ブロック	5年 男子	そらの100かいだてのいえ	偕成社	準チャンプ本
	5年 男子	おすしがふくを かいにきた	白泉社	
	4年 男子	54字の物語∞(エイト)	PHP 研究所	
	5年 男子	ノラネコぐんだんぺこぺこキャンプ	白泉社	チャンプ本
上学年 ブロック	4年 女子	チョコレートのひみつ	学研プラス	
	4年 女子	ゆるゆる妖怪図鑑	Gakken	チャンプ本
	4年 女子	ウォルト・ディズニー(コミック版世界の伝記)	ポプラ社	

